



For SMILE

笑顔のためにできること

KUDO NEWS

第48期 中間報告書

自 2018年7月1日 至 2018年12月31日



工藤建設株式会社



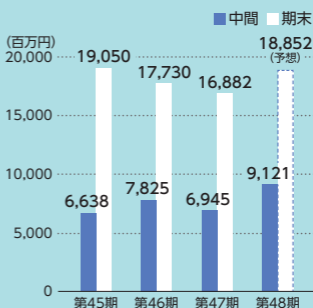
代表取締役 **工藤 英司**

平素は格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、ここに第48期中間期（2018年7月1日から2018年12月31日まで）の業績の概要と、当社の取り組みにつきましてご報告申し上げます。

財務
ハイライト

● 売上高



お客様の感動を創造する生活舞台

国内経済及び建設・住宅業界、介護業界について

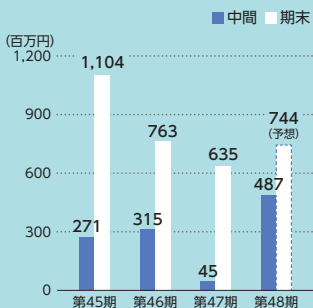
当中間期におけるわが国経済は、通商問題の動向が世界経済に与える影響や、海外経済の不確実性などに留意する必要があるものの、個人消費の持ち直しや企業業績の改善、設備投資の増加等、緩やかな回復が続きました。

建設業界におきましては、建設投資が底堅く推移したことを背景に受注環境は好調な状況が続いているものの、依然として建設技能労働者不足や建設資材価格の高止まりが続き、また、公共投資がこのところ弱含んでいる指標もあり、決して楽観できない経営環境が続いております。

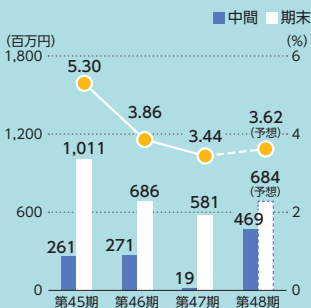
住宅業界におきましては、政府による住宅取得支援策が継続しており、住宅ローン金利が低い水準を維持したものの、金融機関の融資姿勢の変化等に伴う賃貸住宅建築の減少もあり、新設住宅着工戸数は減少傾向が続きました。

介護業界におきましては、引き続き介護サービスの需要が高まる中、政府が打ち出している「一億総活躍社会」の実現に向け、介護施設の整備・増設や、介護職員の処遇改善に対する予算を策定する等の対策が行われておりますが、サービス業を中心とした人手不足が続いており、介護職員の安定確保が経営上の最重要課題となっております。

● 営業利益



● 経常利益 / 売上高経常利益率



創造企業を目指してまいります。

■ 当中間期の業績及び配当について

このような情勢の中、当社は、神奈川・東京を中心とした営業エリアにおいて、お客様の感動を創造し、人生のさまざまなステージを支える生活舞台創造企業を目指して事業展開を図ってまいりました。

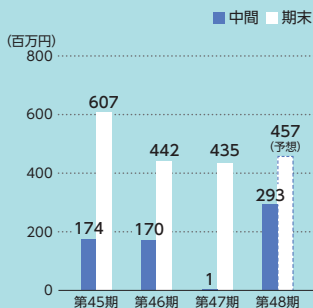
この結果、当中間期における業績は、売上高91億21百万円(前年同期比31.3%増)、営業利益4億87百万円(前年同期比122.1%増)、経常利益4億69百万円(前年同期比2,324.8%増)、中間純利益2億93百万円(前年同期比15,477.8%増)となりました。

なお、当中間期におきましては、前期末にご報告させていただいたとおり、配当を見送らせていただき、年間目標を達成することで当期末配当予想を105円とさせていただきます。

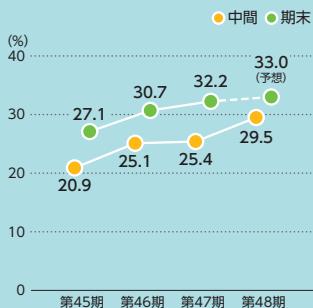
当社を取り巻く環境は厳しい状況にありますが、事業競争力、収益力の一層の強化に向け一丸となって努力を続けてまいりますので、株主の皆様におかれましては、今後ともなお一層のご支援、ご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

2019年3月

● 中間(当期)純利益



● 自己資本比率

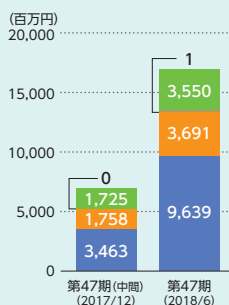


数字で見る工藤建設

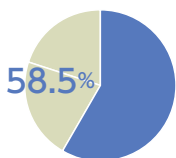
事業内容

企画・提案・建設を一貫したサービスで提供している建設事業、24時間365日住まいの安心を提供している建物管理事業、「地下室付住宅」をはじめ理想の住まいづくりを行う戸建住宅事業、安心と質の高いサービスを行う介護事業まで、人生すべてのライフステージに関わる「すまい」を提供している「生活舞台創造企業」です。

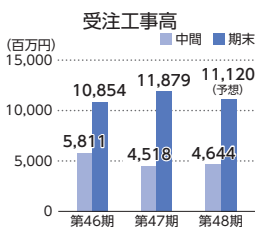
事業別売上高



建設事業



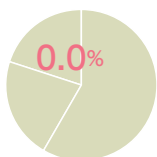
売上高
53億41百万円
(54.3%増)
営業利益
4億19百万円
(199.6%増)



建設部門において、大型の引き渡し物件があったことから、完成工事高・完成工事利益ともに前年同期実績を大幅に上回りました。

以上の結果、住宅部門を合わせた当事業の売上高は53億41百万円(前年同期比54.3%増)、営業利益は4億19百万円(前年同期比199.6%増)となりました。

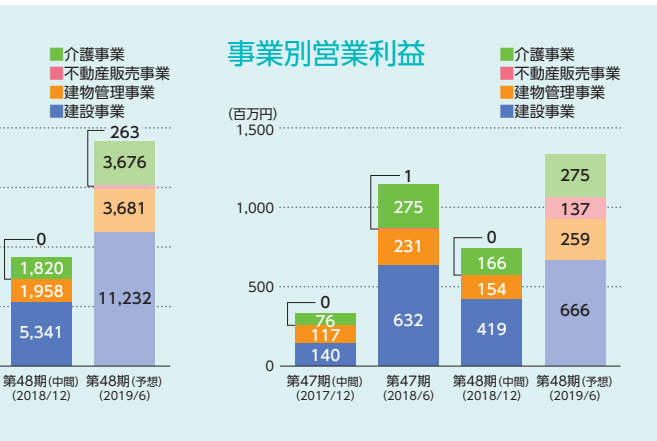
不動産販売事業



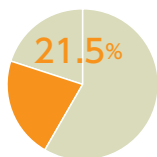
売上高 0百万円
営業利益 0百万円

当中間期における不動産部門に係る売上はございませんでした。(参考:前年同期も売上はございませんでした。)

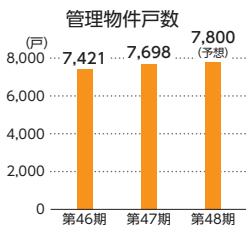




建物管理事業



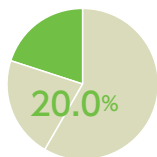
売上高
19億58百万円
(11.5%増)
営業利益
1億54百万円
(31.7%増)



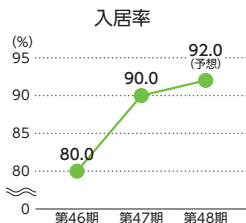
建物管理部門では、大規模修繕工事を含めた工事全般の進捗が順調でした。

以上の結果、当事業の売上高は19億58百万円(前年同期比11.5%増)、営業利益は1億54百万円(前年同期比31.7%増)となりました。

介護事業



売上高
18億20百万円
(5.5%増)
営業利益
1億66百万円
(118.4%増)

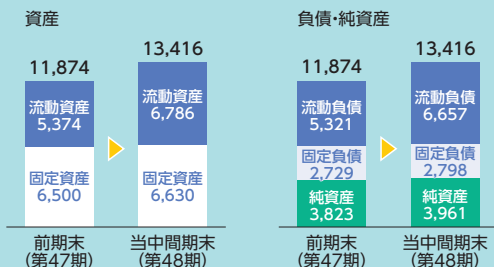


介護部門では、有料老人ホーム10施設の入居者数が年度計画に比較して順調に推移しました。

以上の結果、当事業の売上高は18億20百万円(前年同期比5.5%増)、営業利益は1億66百万円(前年同期比118.4%増)となりました。

● 中間貸借対照表

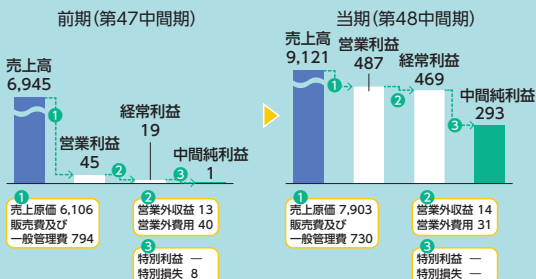
(単位:百万円)



資産の増加は、現金及び預金が7億63百万円、未成工事支出金が5億34百万円増加したことにあり、一方負債の増加は、短期借入金が5億44百万円、未成工事受入金が4億96百万円増加したことにあります。

● 中間損益計算書

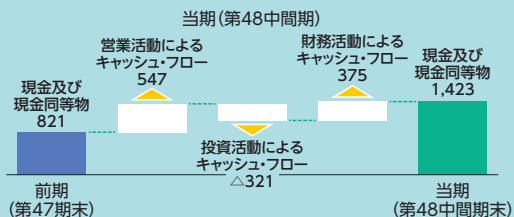
(単位:百万円)



売上高は、建設事業において、例年工事の完成引渡しが第3、第4四半期会計期間に集中しているため、第1、第2四半期会計期間における売上高に比べ下半期の売上高が著しく多くなるといった季節的変動がありますが、当中間期は第2四半期にて大型案件が完成した為売上高は増加しております。

● 中間キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)



当中間期は、投資活動によるキャッシュ・フローに大きな動きはありませんでした。財務活動による資金は3億75百万円となり主な要因は借入金の増加となります。営業活動による資金は5億47百万円で、税引前中間純利益4億69百万円、未成工事受入金の増加額4億96百万円となります。

より詳細な情報は
こちら



工藤建設

検索



特集

語る キーマンが

Vol.11

営業部長
川越 篤史



お客様のニーズを捉え、 問題解決につながる建物を提案

建設事業部の営業部門は、横浜、川崎および城南エリアを中心とし、新築工事の営業を展開しております。

新築営業においては、地場工務店機能を合わせ持つゼネコンとして幅広い対応力が求められます。個人地権者ならびに法人のお客様のそれぞれ異なるニーズを捉え、問題解決につながる様々な課題を提示しお客様と一緒にクリアーすることで受注に至っています。営業活動では、常に地域に根ざした企業としての在り方を意識した開拓を進めており、そこから生まれる信頼関係が、お客様や不動産会社、金融機関、税理士事務所、設計事務所などからのご紹介や、一度ご用命いただいたお客様からのリピートなど、多くの受注機会をもたらしています。

営業部門では、ベテランの営業顧問が現役社員とチームを組んで活動するなど、地域に関する情報力を活かして若手の人材育成にもつなげています。また、リノベーション営業や建物管理事業部、住宅事業部、介護事業部など社内他部門と連携し、新築営業から派生するお客様からの様々なご相談に応えています。

ワンストップ営業体制と 地域密着展開による強みを発揮

「生活舞台創造企業」を標榜する当社は、建設事業において調査企画から設計、新築、改修、管理そして戸建住宅



「生活舞台創造企業」として 地域に必要とされる建物づくりを 推進していきます。

●Profile 川越 篤史 (かわごえ・あつし)

1974年生まれ 1998年4月工藤建設入社
2003年第2営業部 主任 2014年 建設営業課 課長
2018年7月より建設事業部営業課部長代理

や介護サービスまで、ワンストップでお客様の課題に対応できる営業体制を強みとしています。さらに地域密着の強みとして、地元企業の事業拡張などのニーズと土地活用を希望するお客様のマッチングを図るといった展開が可能であり、他社との差別化要素となっています。

今後の課題としては、お客様からの高い評価と信頼の証である紹介やリピートの獲得に甘んじることなく、新規顧客を積極開拓する強い営業力を築き、特にオリンピック開催後も数多く予定されているインフラ整備を商機として、他社に先んじていく必要があります。人材面では、情報を効率的に収集・分析しつつ、きめ細かなアウトプットができ、プロジェクトマネジメント能力に優れたオールラウンドな営業の育成が求められます。

次代を担う社員とともに変化を遂げ、 新しい工藤建設へ

当社は、使命としての「暮らしの文化の創造」とさらなる社会貢献を果たし、持続的成長を遂げるべく変化していきます。創業50年から100年へと時代の中心を担う社員とともに事業の幅を広げ、新しい工藤建設を創り上げていくために、私自身の役割である収益責任・人材育成・コンプライアンスの確立を果たし、お客様のお役に立ちながら企業の飛躍に寄与してまいります。

株主の皆様には、これからの工藤建設の挑戦にご注目いただき、ますますのご支援をお願い申し上げます。



会社概要／株式情報

会社概要 (2018年12月31日現在)

商号 工藤建設株式会社
設立 1971年(昭和46年)7月1日
代表者の氏名 工藤 英司
事業年度 毎年7月1日から翌年6月30日まで
従業員数 459名(男子235名、女子224名)

事業所

本社 神奈川県横浜市青葉区新石川4-33-10
TEL.045-911-5300 (代表) / FAX.045-911-3960

東京支店(建設事業部)

東京都港区芝5-5-2 原野ビル3F
TEL.03-5419-1792 / FAX.03-5419-1793

港北ニュータウン営業所(建物管理事業部)

横浜市都筑区茅ヶ崎中央56-12
TEL.045-415-8001 / FAX.045-415-8033

フローレンスケアたかつ

川崎市高津区久末1744-2

フローレンスケア美しが丘

横浜市青葉区美しが丘4-43-4

フローレンスケアたまプラーザ

川崎市宮前区犬蔵2-17-65

フローレンスケア港南台

横浜市港南区港南台6-5-13

フローレンスケア宿河原

川崎市多摩区宿河原6-12-29

フローレンスケア聖蹟桜ヶ丘

東京都府中市日新町5-53-1

フローレンスケア芦花公園

東京都世田谷区南烏山2-32-28

フローレンスケア荻窪

東京都杉並区荻窪2-4-29

フローレンスケア横浜森の台

横浜市緑区森の台12-12

フローレンスケア宮前平

川崎市宮前区宮前平2-9-2

フローレンスケア溝の口

川崎市高津区下作延3-6-2



役員 (2018年12月31日現在)

代表取締役	工藤 英司	
常務取締役	工藤 隆晃	営業全般統括
取締役執行役員	藤井 研児	介護事業部長委嘱
取締役執行役員	田崎 功	建設事業部長委嘱
取締役	秋澤 滋	経営管理部長委嘱
取締役(会長)	工藤 次郎	
取締役	工藤 隆司	
取締役	太田 嘉雄	(社外取締役)
取締役	内田 裕子	(社外取締役)
常勤監査役	庄司 盛弘	
監査役	八重沢 知正	(社外監査役)
監査役	奥原 章男	(社外監査役)
監査役	苫米地 邦男	(社外監査役)
執行役員	白坂 義道	(建物管理事業部長)
執行役員	島山 靖浩	(住宅事業部長)

株式の状況 (2018年12月31日現在)

発行可能株式総数	4,400,000 株
発行済株式の総数	1,331,220 株
株主数	762 名

大株主 (2018年12月31日現在)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
株式会社トップ	712	53.49
工藤 英司	39	2.99
株式会社MOMOコーポレーション	39	2.98
株式会社横浜銀行	39	2.93
工藤建設株式会社	34	2.58
工藤 次郎	33	2.51
八重沢 知正	30	2.29
川本工業株式会社	16	1.26
株式会社吉永商店	15	1.14
工藤建設従業員持株会	12	0.93

介護事業トピックス

3月1日より新規事業所が開所致します

- **フローレンスケアホーム千鳥町**(介護付きホーム)
東京都大田区千鳥3-21-3
- **フローレンスケアホーム川崎大師**(介護付きホーム)
川崎市川崎区昭和2-5-6
- **フローレンスケアホーム鎌倉**(介護付きホーム)
鎌倉市岩瀬1-13-1
- **フローレンスケアホーム湘南鎌倉**(介護付きホーム)
鎌倉市上町屋524-3
- **フローレンスホーム洋光台**(住宅型有料老人ホーム)
横浜市磯子区洋光台3-24-26
- **ロケアホーム北赤羽**(サービス付き高齢者向け住宅)
東京都北区浮間3-24-10

株主メモ

事業年度 毎年7月1日～翌年6月30日

期末配当金受領株主確定日 6月30日

中間配当金受領株主確定日 12月31日

定時株主総会 毎年9月

株主名簿管理人
特別口座の口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社

三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
〒137-8081

同連絡先 新東京郵便局私書箱第29号
TEL 0120-232-711(通話料無料)

上場証券取引所 東京証券取引所



工藤建設株式会社

神奈川県横浜市青葉区新石川4-33-10

TEL: 045-911-5300 (代表)



見やすいユニバーサルデザインフォントを採用しています。

環境に配慮したFSC® 認証紙と植物油インキを使用しています。